

# コロナショックによる暴落に関して

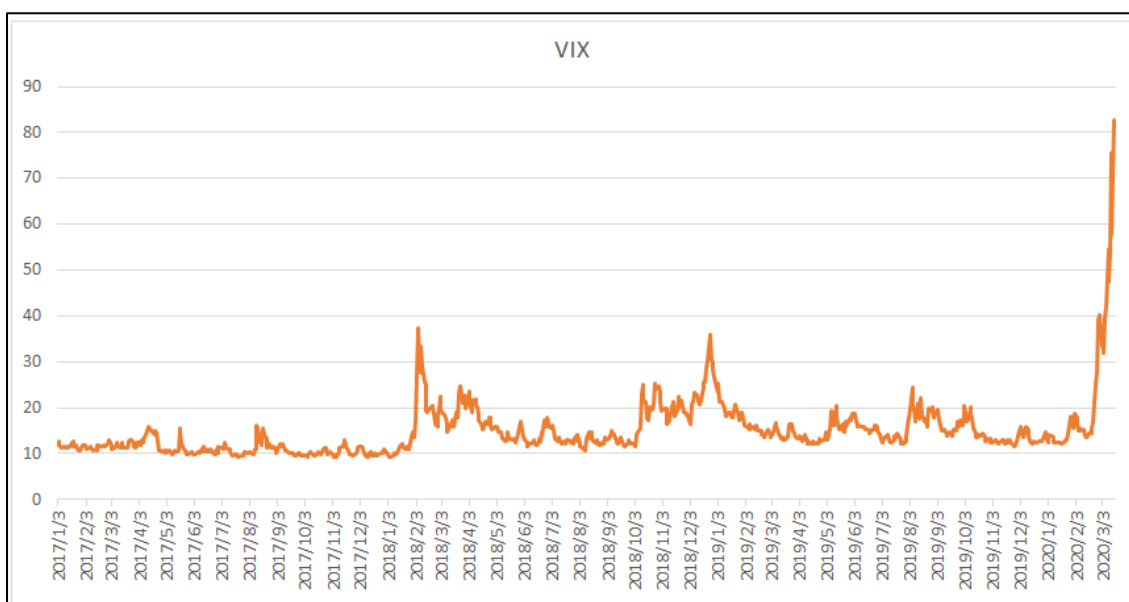
## － システムトレード的な見地から考察 －

ウエストビレッジインベストメント  
岩本 祐介

コロナウイルスによる米国株の暴落が2月下旬から始まった。

この現状がどの程度の異常事態なのか、システムトレーダー的な見地から少し考えてみたい。なお、分析対象は日経225先物（ラージ）、また、デイトレード（超短期の売買）を前提に考えてみた。

まず、下図は2017年1月から2020年3月16日までの米国VIX指数の推移である。  
（日足）



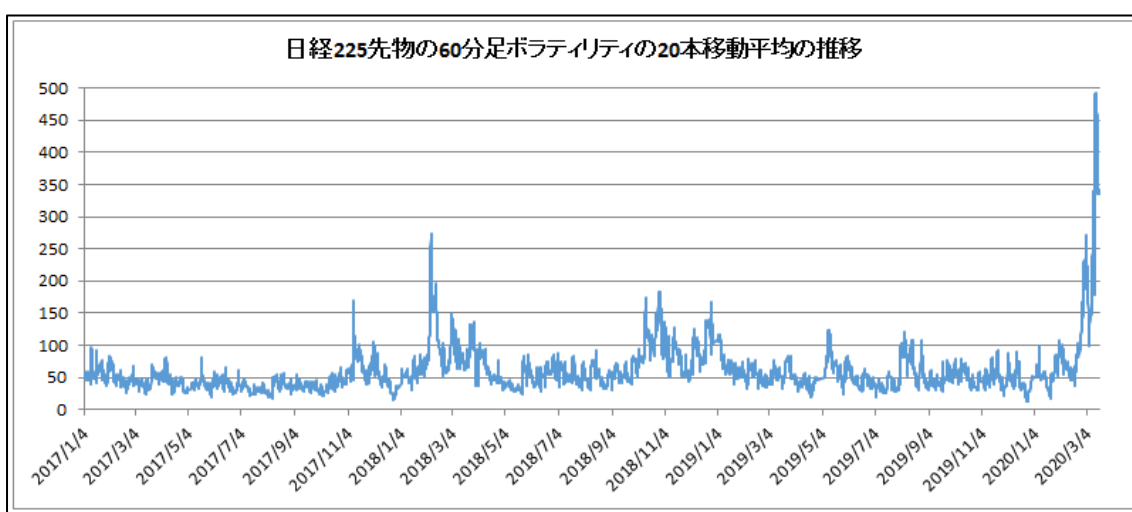
VIX指数が大きく上昇したケースが数回見られる。

一度目は2018年2月頃、二度目が2018年12月頃から2019年1月にかけて、そして今回。

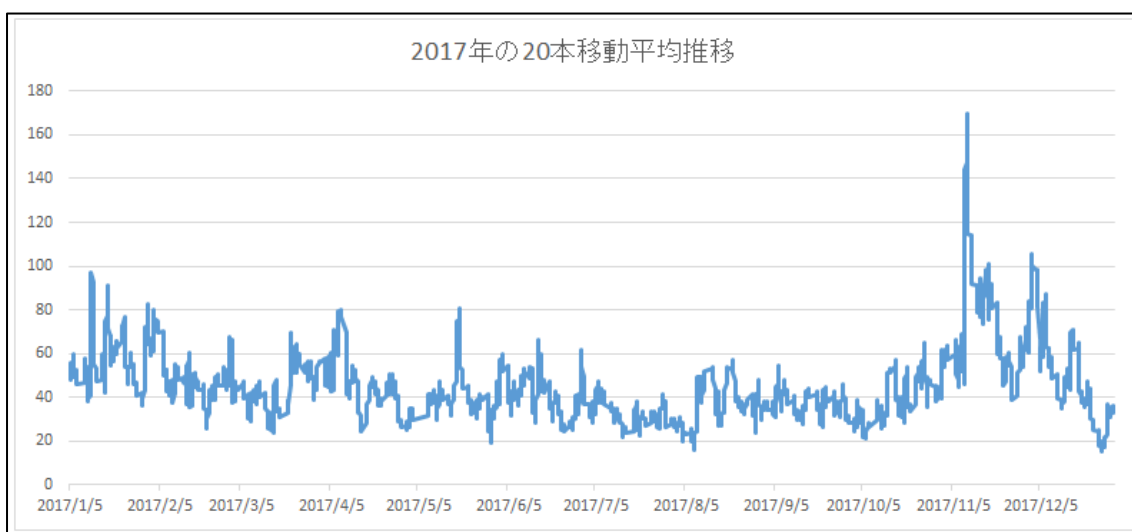
さて、上記の期間、日経225先物（ラージ）はどのようなボラティリティだったのかを調べてみた。調査の方法は下記の通り。

- ① 日経 225 先物の 60 分足を利用したボラティリティを考えた（短期トレードを前提としたため、60 分足を利用してみた）。
- ② ボラティリティの測り方は、60 分足ごとの高値と安値の差（レンジ：高値－安値）を利用した。
- ③ ②の値を滑らかにするために、②の 20 本分の移動平均を利用して、調査した。
- ④ なお、検証期間は 2017 年 1 月から 2020 年 3 月 16 日までで、60 分足の価格は日中とナイトとも入れている。

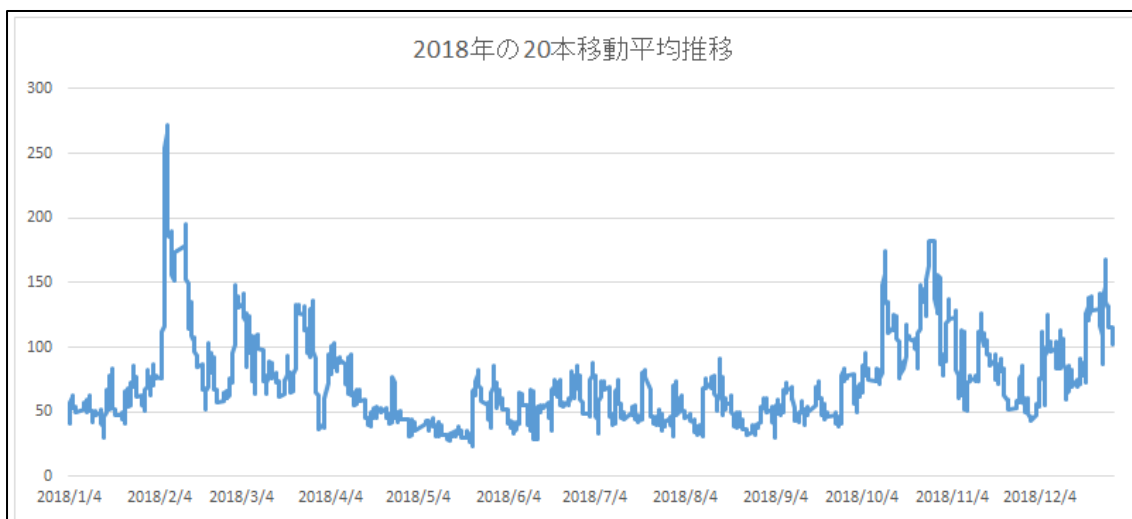
以上を前提にした時の、日経 225 先物のボラティリティ推移は下図の通り。



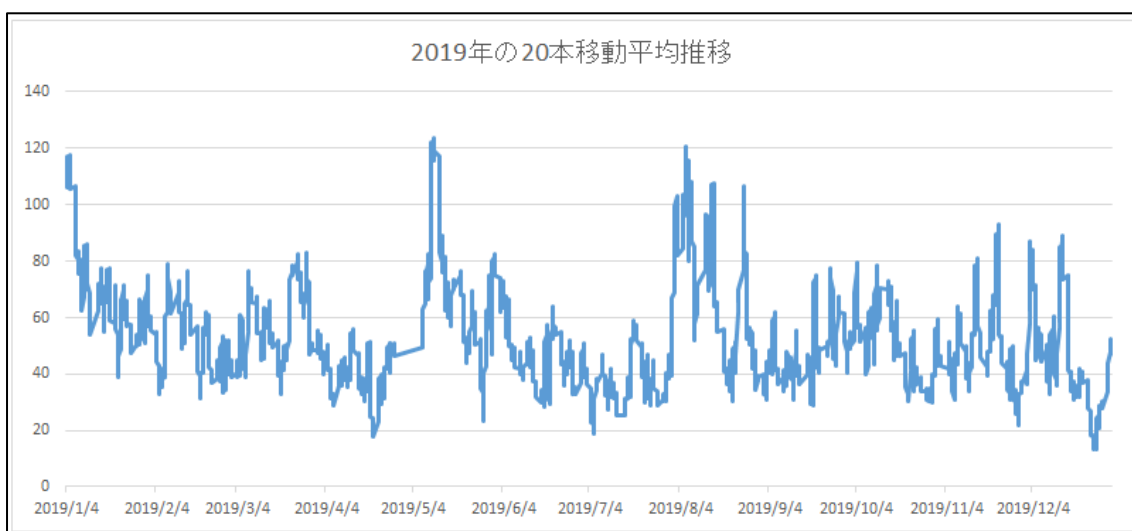
見づらいと思われるので、上図を各年ごとに分けてみたのが下図である。



なお、2017 年の一年を通した 60 分足ボラティリティの平均値は、45 円だった。

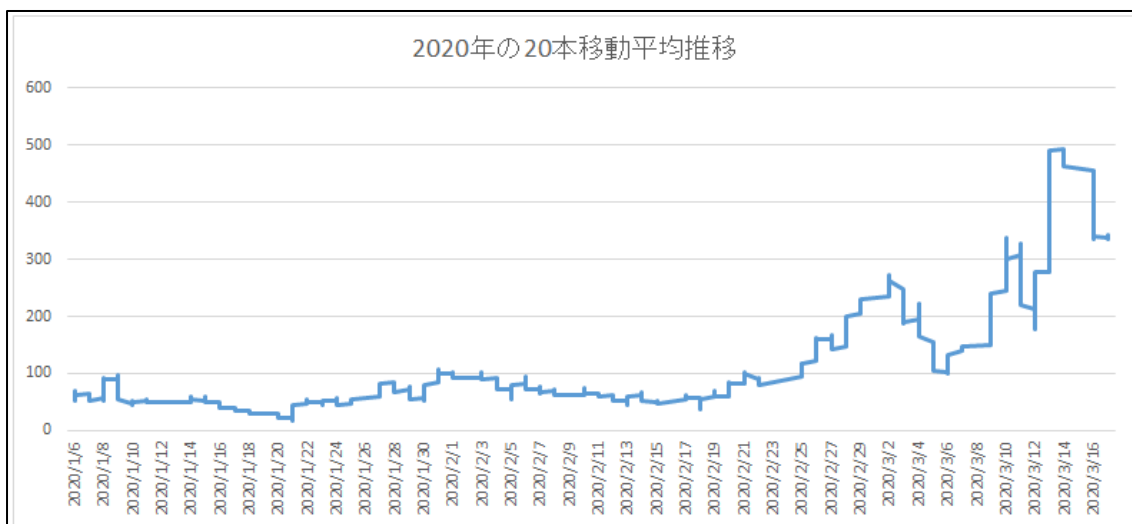


なお、2018年の一年を通じた60分足ボラティリティの平均値は、73円だった。



なお、2019年の一年を通じた60分足ボラティリティの平均値は、52円だった。

そして、2020年が下図。



おおむね、各年の 60 分足ボラティリティ 20 本移動平均は 50 円前後で推移しているが、上記した VIX の上昇タイミング時を見てみると、

- 2018 年 2 月頃は瞬間的に 250 円を突破している。
- 2018 年 12 月から 2019 年 1 月頃は、100 円から 150 円を突破する動きとなっている。
- そして今回。60 分足の値幅が 500 円に達するレベルまで来ており、2017 年からの推移を見ても、異常事態になっていることが分かる。

さて、これを元に、日経 225 先物をシステムティックにデイトレード運用しているトレーダーにとって、現状はどのようにとらえたら良いだろうか？

225 のデイトレのシステムを前提に考えると、ロスカットは大きくても 200 円程度だろう（多くは、100 円から 150 円前後だと考えられる）。

システムは裁量トレードのように、エントリーをピンポイントで行うことは難しいので、エントリーした後の振られ状態（含み損の状態）を、ある程度まで加味してロスカット値を決めていることが多い。

つまり、振られた状態（含み損の状態）を何とか耐え、最終的なエグジット（決済）のタイミングで利益に転じていることが理想なのだ（残念ながら、エントリー後に、すぐに含み益の状態になることはあまり多くない）。

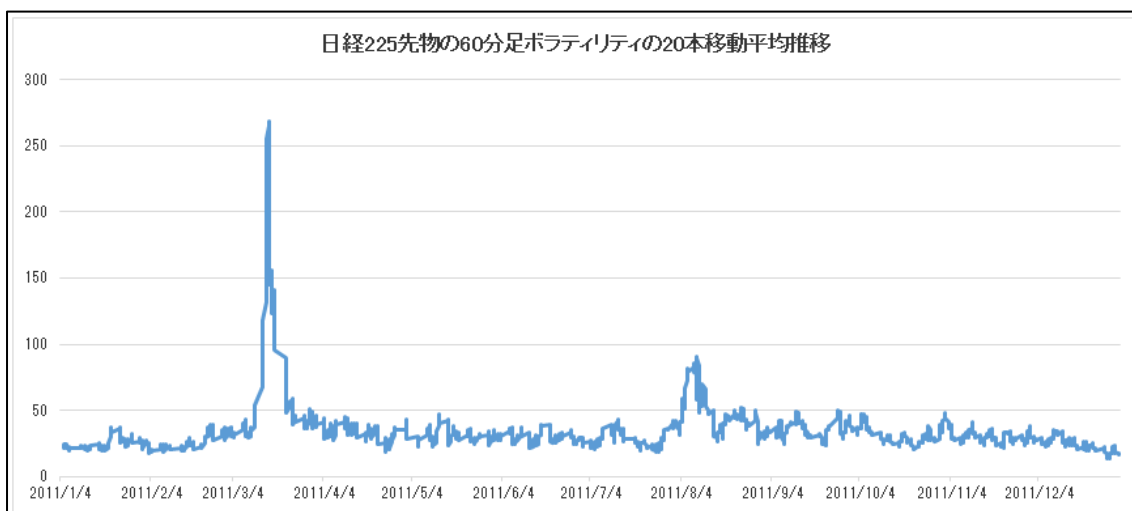
そのように考えると、現在のマーケットの状態は、あまりにもボラティリティが大き過ぎる。一瞬のうちに、200 円から 300 円動いているような環境下では、エントリー後の振られた状態の時に、瞬時にロスカットになってしまうケースも多くなる。

エントリー直後から含み益なって、すぐに利益確定できればよいが、それでは、まさに上か下かのギャンブルになってしまう。

また、これだけ値動きが速いと、想定ロスカットよりも、実際にはかなり大きなロスカット幅になってしまう可能性もある（いわゆる、価格のすべり）。

そもそも、今回の暴落がシステムを作った時の想定リスクを外れてしまっているかもしれない。せめて、ボラティリティが安定して 150 円程度まで下がってくるまでは、まずポジションを小さくして対処していくことが重要だろう。

ちなみに、2017 年よりも前にさかのぼって考えてみると、2011 年 3 月の東日本大震災時の相場環境が浮かぶ。2011 年の日経 225 先物の 60 分足ボラティリティ（20 本移動平均）を調査してみると、下図のようであった。



3月の震災時から、ボラティリティは 250 円を突破しているが、300 円までは達していない。

この時も 225 先物は、かなりボラタイルな動きだったと記憶しているが、今回の下落は、その時の倍の動きになっている。

上記したが、大きな損失にならないように、ポジション数を下げる、トレードを休む、等の対応が必要であろう。

以上

---

### **免責事項**

本サービスに掲載された情報・ツール・資料は、あくまで情報提供を目的としたものです。証券など金融商品の売り買いを提案・勧誘するためのものとして、また証券など金融商品について助言・推奨するものとして、利用・解釈しないでください。

また、本サービスは一般向けに編集されています。特定の投資目的、特定の投資環境、特定の投資家を一切考慮していません。事前に専門家の適切な助言を受けるべきですし、最終的な投資判断は個々人が個々の状況を考慮して自らの責任で下すようにしてください。